

## 著書紹介

# Academic Library

著者自らが新刊を紹介します。



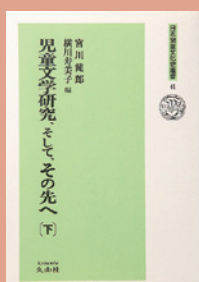
### 「ことばのコミュニケーション —対人関係のレトリック—」

コミュニケーション学部准教授 小川一美(共著)

▼A5判/231ページ/ナカニシヤ出版/

2,500円+税/2007.10.20発行

▼ことばと対人関係に関する様々なトピックについて、心理学的なアプローチと言語学的なアプローチの両方から論じた書である。対人関係の描写、ポライトネス、電子コミュニケーション、依頼、皮肉、欺瞞など様々なトピックの中で、著者は「親密化過程と会話」について執筆した。



### 「児童文学研究、そして、その先へ(下)」

文化創造学部教授 酒井晶代(共著)

▼A5判/118ページ/久山社/

1,553円+税/2007.11.30発行

▼日本児童文学学会創立40周年記念「打ちつづくシンポジウム」(2002年)の報告を再構成した上下二巻の論文集。明治期の少年雑誌に関する論文「読むことと書くことの間で—小説『落花一片』と投稿少年たち—」を下巻に執筆した。



### 「東洋の秋」

文化創造学部教授 島田修三

▼A5判/257ページ/ながらみ書房/

3,150円/2007.12.5発行

▼2002年春から2007年秋までの5年間に制作した短歌作品から575首を収めた第6歌集。昭和という時代への鎮魂と愛惜をテーマとして編集した一巻である。第6回前川佐美雄賞受賞。



### 「自然主義のレトリック」

文化創造学部准教授 永井聖剛

▼A5判/318ページ/双文社出版/

4,830円/2008.2.20発行

▼私たちにとって自明な小説文体である言文一致体がほぼ100%の普及をみるのは明治40年頃のこと。本書は、そうした情況に大きく関与した田山花袋の(いかにも自然主義的な)三人称・言文一致の小説文体がいかに生成されたのかを、同時代の諸言説との関係のうちに考察したものである。



### 「絵画の『進化論』

～写真の登場と絵画の変容～

現代社会学部教授 小田茂一

▼A5判/206ページ/青弓社/

2,000円+税/2008.2.28発行

▼写真の誕生は絵画の大きな変化のきっかけとなり、絵画表現は新たな可能性を探究し続けてきた。モネやスーラなど印象派以降の作家と作品を検討することによって、その変容の軌跡をたどり、メディアとしての自律性を目指した絵画が、今後どこへ向かうかをあらためて問い直す。